

## Desert Wind

Vol. 47, October 2010

■LVJCC 牧師: 鶴田健次

## ■■心を治める者は人生を治める■■

私たちのすべての言動・行動は私たちの心に支配されています。ですから、もし私たちが自分の心を治めることができれば、私たちは人生を治めることができるのです。では、どのようにすれば心を治めることができるのでしょうか？

『油断することなく、あなたの心を守れ、命の泉は、これから流れ出るからである』(箴言 4:23)

## 1) 御言葉によって心を治める

御言葉を心の中にいつも満たしておけば、悪い思いが心に入って来れません。御言葉をなおざりにするなら、悪の誘惑に惑わされ、心が揺さぶられます。ヘブル 4 章 12 節に、「神のことは生きていて、力があり、両刃の剣よりも鋭く、たましいと霊、関節と骨髄の分かれ目さえも刺し通し、心のいろいろな考えやほかりごとを判別することができる」とありますが、御言葉は人の心を鋭く見抜くのです。ですから、御言葉によって心を守らなければなりません。御言葉で心を治めることができれば、人生を治めることができるのです。

イギリスの首相ウイリアム・グラッドストーンは、「私はこの時代に、世界的な人物95名を知っているが、その中で87名は聖書に従順な人である」と言いました。聖書の御言葉がいかに人の心を治めることができるかという証拠です。

## 2) 信仰によって心を治める

私たちの五感で心を治めようとするれば、心は揺れ動く海の波のようで、いつも変化が激しくなります。環境を見て心をそこに置いたら、環境は絶えず変化するので、心も変化します。朝に変わり、昼に変わり、夜に変わるので、終始一貫した心を持つことができませぬ。ですから、心はいつまでも変わらない信

仰によって治めなければなりません。神様の御言葉を信じるのです。そうすれば、この世的には何の解決の手掛かりがなくても、心を治めることができます。イエス様は「信じる者には、どんなことでもできる」と言われました。信じれば、その信仰によって心を治め、その心が神様の御手を動かすのです。

12 年間、長血をわずらった女性が心の中でイエス様を信じ、イエス様の恵みを受けようと慕い求めるや否や、イエス様が彼女の家の前を通られ、イエス様の着物にさわり、長血が癒されたのです。彼女が癒されたのは、イエス様に対する信仰が与えられたからです。

私たちは環境が変わることを待つべきではありません。心が変われば環境が変わるのです。心に絶望があれば、どんな環境でも希望はありません。心に悲しみがあれば、どんな環境でも喜びはありません。まず心が変われば環境が変わるのです。信仰でしっかりと立てば環境が変わるのです。

## 3) 夢によって心を治める

85 歳になったアブラハムの心は揺さぶられ、心が真っ暗でした。なぜなら、まもなく死ぬであろうに、後継ぎの息子がいません。ところがある夜、神様はアブラハムを外に連れ出し、天を見上げて空にある星を数えなさいと言われました。そして「あなたの子孫はあの星のように多くなる」と仰ったのです。そこでアブラハムは心の中に夢を得たのです。体は 85 歳です。妻は 75 歳です。体が若くなったではありません。夢を持ったのです。

夢が心を治めると、体は以前と同じ 85 歳の年老いた体ですが、心が変わり、その夢を求めて生きようになるのです。夢が心を変えたのです。あなたが十字架を見上げるならば、神様が下さる夢を見るようになります。そうすれば、心が変わられ、体も変えられ、環境も変えられてきます。これは本当に不思議な世界です。心を治める者は人生を治めるのです。

## DREAMS COME TRUE

- ☞ 教会堂の建設
- ☞ 敬老ホームの設立
- ☞ 幼稚園の設立

## お祈りのリクエスト

- 日本の家族の救いのために
- 各スモールグループのオikos伝導のために
- 入門者クラスのために (田中兄、亜津子姉、彩沙姉)
- 英語部の働きのために
- 小さな子供を持つお母さん方のクラスのため
- 堀田兄弟の神学校での学びのために
- 癒しの祈り: 恵理奈ちゃんの網膜芽細胞腫、植木ケン兄の糖尿病、神崎先生の目、倉田一徳さんの脳腫瘍、新井雅之兄の癌、夕紀子姉の緑内障、中村裕二先生の直腸癌、以津子姉、Kahoku さん

Desert Wind では、ご意見・質問等何でも受け付けております。

lvjccdw@hotmail.co.jp

発行人: 鶴田健次

編集人: 松岡みどり



## 編集室 雑記

先日奇妙な夢を見た。目が覚めたらホテルの部屋のベッドに寝ていて、「そなたニューヨークへ旅行に来てるんだ！」と思い出した。だが次の瞬間、ギョツとした。総ての壁が透けて見える！いや、無いのかもしれない！「何これ！」「どういこと！」と私はパニックだった。あるはずの壁の向こうで、通勤する人々がこちらを見ながら通り過ぎて行く。何がなんだか分からないまま、ただひどく恐怖だった！そして、ドギマギしてるうちに目が覚めた・・・

一体この夢は何なんだろう？考えずにはいられなかった。そうだ、「心」だ。人には見えぬ心は突然表に出され、ウロタエ取り乱し恐ろしくなった。ひどいものだ！心を見られたら怖くなるよ！そんな心と毎日平気で同居している。私も「白く塗られた壁」だ。中は悪臭を放っている。神様は、こんな醜い心の私を愛し、イエス様の義の衣を着せて下さった。なんと有難いことか。

## 証し ● Harumi Walter

## ●● 神様と私と仕事 2of 2 ●●

前回お伝えしたように、私の仕事はプライベートジェットのフライトアテンダントですが、長年この仕事をしている中で、いくつかの願いが起こされてきました。その一つに、他のキャビンクルーと仕事がしたいという願いがありました。というのも現在、一番人気の機種専用機には普通一人しかフライトアテンダントを乗せません。ですから、自分で全てをコーディネートし、マネージ出来る良い面がある一方で、ひとりよがりになりがちでした。他のクルーがどのようなサービスをしているのか、新しいアイデアはないだろうか、今までも会合などで、情報交換をする機会はありませんでしたが、実際に一緒に仕事をするのが一番の近道だと常日頃から思っていました。しかし神様の不思議な導きで、大型機を何台も所有している、現在のラスベガスの会社で働く事になり、今回のフライトのように、他の大勢のキャビンクルーとも仕事が出来る機会が、与えられるようになりました。最新のサービストレンドの情報交換や、時には反面教師になるような事柄に遭遇する事も含め、多くのことを学ぶ機会が与えられている事に、心から感謝しています。

さて私の願いの一つの中に、長年帰れずにいた日本に行きたいという事もありました。前の会社ではスケジュールの都合と責任が多くあり、なかなか休みが取れませんでした。しかし今回契約社員という少し融通のきく立場になり、その立場を活用出来ないかと思っていたところでした。無事に某国大統領のフライトも終わり、その次のフライトにも続けて乗るようになるとの任務を受けましたが、その最終地が日本からほど遠くないアジアの国でした。ということでオフィスの方に、出来れば日本に寄ってから戻りたいとの希望を出しておきました。丁度一番フライトが忙しい時期で、スケジュールはいつもにも増して変わりやすく、私の願いが聞き入れられるかわからないまま、アメリカを発ちました。でもなぜか、かさばるお土産だけは先に送っておいたほうがよいと思い、そのようにしました。(とても日本的ですね。)さて、いざ最終目的地のアジアの国に着いても、オフィスからは答えがきけません。しかしスタンバイの最終日に、休暇の許可が出て、その日のうちにチケットを購入し

て、次の日には懐かしの日本に久しぶりに帰る事ができました。丁度梅雨が明けたので、日本の夕暮れ空を機内から望みながら、ああ、なんて美しい国なのだろうと改めて感動しました。飛行場には白髪が増えた両親がそろって迎えに来ており、涙が出そうになりました。3時間ある車の帰途中、数ヶ月前にラスベガス教会でさせて頂いたお証しと、鶴田先生の礼拝説教が入った CD を聞きました。牧師である両親は、この数年会えなかった娘が、常に憐れみ深い神様の導きと守りの中にいたこと、クリスチャンの友人の主在る愛の支えの中にいて、今回ラスベガスの素晴らしい教会に導かれた事を、一番の親孝行だと喜んでくれ、私も本当に嬉しかったです。今回の日本滞在中には家族の全てのメンバーにも会う事が出来ました。妹はヨーロッパから丁度戻ってきていて、3日後には再び戻る直前でした。また、父は同じヨーロッパでのドキュメンタリーの仕事で、やはり5日後には日本を発つ事になっていましたが、その直前に皆に会え、神様のご計画とそのタイミングは、やはり完璧だと思わずにはいられませんでした。

最後に、神様は思いがけないプレゼントもして下さる方だという事をご紹介したいと思います。というのも、今回のフライト中にイスラエルに滞在する事がありましたが、忙しい準備の合間に一日お休みを頂き、エルサレムに行く事が出来たのです。イエス様が十字架を背負って歩かれた、そのゴルゴタの丘までの道のりのすぐ横には土産屋がひしめき、でも同時に世界各国から多くの信者を含めた観光客が集まってきている、何ともいえない光景を目のあたりにしました。また、オリーブ山から街全体を見渡したとき、イエス様が私たちの罪のために十字架にかかる直前に、血の汗を流してお祈りされたゲッセマネの園も見え、改めて十字架の意味とその重さを、考えずにはいられませんでした。なによりも、このような貴重な機会が思いがけず与えられた事に、心から感謝でした。

「あなたのしようとする事を主にゆだねよ。そうすれば、あなたの計画はゆるがない。箴言 16. 3」

憐れみ深く、誠実で、全能の神様にこれからも一歩一歩おゆだねしつつ、歩んで行けたらと思っています。

